

コロナ対策を斬る

次亜塩素酸水の不都合な真実 空気感染には空気感染の対策を

(株)あかりみらい代表取締役 越智文雄氏



(おち・ふみお)1957年12月札幌生まれ。北大法学部卒業後、北海道電力入社。97年電気COP3に立ち合い、2008北海道洞爺湖サミット環境総合展事務局長、環境問題・エネルギー専門家の日本に除菌連合会長、札幌ながかができる経済人ネットワーク主宰。64歳

新型コロナウイルスが蔓延して約3年。日本では飛沫感染と接触感染のための対策が行なわれ、3密回避というキャッチフレーズをあたかも万能かのように触れ回った。ところが昨年の春にアメリカCDCは接触感染の確率は極めて低く空気感染がその主たる原因であると発表していた。なぜ日本ではこの根本的な事実を隠していたのか。

世界中でマスクが外されているのに日本では台風の中でもマスクを外せない気の毒な人たちがいる。マスクをしていても呼吸をしている限り密室では他人のウイルスを吸い込む。空気感染に手洗いは関係ない。エレベーターに乗るたびにアルコールで手指消毒させる新聞社は神経症だ。アクリル板はあってもなくても空気感染には関係ない。かつて他人のくしゃみを正面から浴びたことはない。国葬の総理の弔辞で唾の飛沫が飛んでいたが目の前に落ちていた。寒い真冬に窓を開けて換気などしてられない。灯油が上がり電気代が倍にもなって窓を開けて暖房などしてられるはずがない。冬にはインフルエンザは流行るものだ。駅や空港でPCR検査を無料で勧誘しているのは日本くらいのものだ。

そのCT値も高く設定してあるので死んだウイルスもカウントして陽性判定されている。オミクロン株になってからははるかに弱毒化されている。発表されている感染者のうち9割以上は軽症か無症状だ。死亡者の年齢の多くは90代や80代で日本の死亡平均年齢を超えている。交通事故で死んでも鼻の穴の検査で陽性になればコロナ死にカウントされている。死ななくなった病気にこれほどの金をかけるならば癌や脳溢血の特効薬を作って欲しい。次亜塩素酸水を空間噴霧すると結膜炎になり気道障害が起きる。政府は空気感染を隠し続け未だにその積極的対策をとらうとしない。旅行の補助金もワクチンを3回打ってなければ対象にならない。さてこれらの中で嘘はどれでしょう。

日本が失ってしまったもの
新型コロナウイルスが流行り始めた3年前、ウイルスの正体もわからず中国武漢の恐ろしい映像が流されて世界中がパニックになった。メディアはヒステリーを起こして連日専門家でもない医師に無責任な解説をさせた。政府はこのワイドショーを見ながら対策を決定し、ひたすら責任を取らされることのないよう第三者委員に判断を任せ過剰な自粛対策を強制した。国民は完全に洗脳され自分の頭で判断することができなくなり、今や政府がマスクを外して良いと言っても外せない1億総神経症患者になってしまっている。この3年間に日本が失ってしまったものがどれほどあるか、なぜここまで誰も正しい判断ができていないのか、

勝手に国全体が歪んで衰えてしまったのか。その犯人の1つが利権構造である。数多ある陰謀論の中でワクチン会社と医療業界、薬品業界、アルコール業界にとっては今のコロナ禍が去る事は大きな減収になる。これほどおいしい思いをしながらいまさら手放すことができない。国民が一生ワクチンを打ってアルコールで手を洗いつづけることが彼らにとっての幸福なのである。

風評工作が感染を広げた

ワクチンに言及すると社会から抹殺される風潮があるため自分が証明できることのみをお伝えする。本誌で連載させてもらっている「次亜塩素酸水の不都合な真実」については、前号のアルコール業界と厚労省の一部が画策した空気感染対策を封じ込める悪辣な風評工作をご理解いただいたと思う。今、日本除菌連合と次亜塩素酸水溶液普及促進会議では、この冬の空気感染対策のために政府に積極的な対策製品と資材を効果のある方法で使用することを推奨するよう求めており、国会答弁でも追及している。

要は、窓を閉めた部屋でインフルエンザやコロナウイルスに感染しないためには滅菌型の空気清浄機か次亜塩素酸水の空間丸ごとの除菌しか方法は無いのである。アルコールでは空気洗浄化はできない。この3年間自分たちの利益さえあれば感染者が増えても構わないという業界利権の工作に惑わされた保健所、自治体、学校、保育所、介護施設のいかに多かったか。自分で実験

もしていない専門家と言われる無責任な人間たちの発言でどれだけの人が嘘を信じてしまったか。この壮大な嘘を信じたために自分の親や子供が感染し苦しみながら亡くなり、社会経済が麻痺して失業してしまったのである。初めから空気感染対策をとっていればこんな世の中にはなっていなかったのである。保健所も自治体も自分の頭で判断し情報集めをしようともしなかった。厚労省の捏造された「お勧めしない」通達を信じてインフルエンザ対策でも使われてきた次亜塩素酸加湿器を撤去させた。この巨大な陰謀に今やつと終止符が打たれようとしている。今年の3月28日には日本感染症研究所が新型コロナウイルスは空気感染であることをやっと認めた。4月の国会厚労委員会では「感染対策を資材と方法から考える超党派議員連盟」の議員からの質問に厚労大臣は次亜塩素酸水の空間噴霧を認めた。昨年10月の厚労省のメンツがかかってあえてわかりづらく作った通達も1年かけてやっと明確に次亜塩素酸水をお勧めしないと見解は間違いであつたことを認めた。

全道の保健所の皆さん、自治体保健師の皆さん、北海道庁保健衛生部の皆さん、札幌市危機管理の皆さん、テレビで解説される専門家とされている皆さん、次亜塩素酸水を空間で気化しても結膜炎にも気道障害にもなりません。専門家の代名詞の松本哲也氏が「自分はそんなこと言っていない」と議連会長の事務所までテレビ解説は間違いだったと認めています。感染を防ぐことを仕事と

している皆さんが利権で作られた風評を信じてはいけません。北海道のこれからの第8波を封じるためにそこに正しい効果のある方法があるのであればそれを拒絶せずに試してみてください。

次亜塩素酸水活用の再通達

ここまで書いてきてうれしい通達が発信された。2年間かけて厚労省とやりとりしてきた中で、10月24日に全国の保健所に誤った認識を与えてきた次亜塩素酸水の空間噴霧について改めて「その活用を否定していない」ということを厚労省コロナ対策室から自治体と保健所への事務連絡で明確に発信された。10月27日の参議院の厚生労働委員会では川田龍平議員が換気のできない冬場に向けての空気感染対策について質問し、加藤厚労大臣が前向きな取り組みを答弁した。政府の対策を待たなくても自分たちでできることは自分たちでやるべきである。窓を開けることができない冬場に空気清浄機か次亜塩素酸の気化加湿器を置くことで間違いなく感染リスクは減る。馬鹿げた風評で日本の空気感染対策がこれほど遅れた事は厚労省の歴史に残る汚点であり、効果のある対策を打たずに妨害し続けて感染者を増やしたのは薬害エイズ事件に次ぐ行政の不作為である。ワクチンもマスクも次亜塩素酸水の空間噴霧もメディアに惑わされることなくコロナ洗脳が解けた自分のクリアな頭で考えなくてはならない。

詳しくは次亜塩素酸水溶液普及促進会議ホームページをご覧ください。